

2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	吉村 道孝
最終学歴	学位	専門分野
慶應義塾大学大学院医学研究科（博士課程）	博士（医学）	臨床心理学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」にあるように、教養に加えて人間としての人格の成熟を目指す。

【目標】

ヘルスケアの視点から、社会をより良くするための知への探究と社会的弱者の視点など多様性を理解できる人格形成の成熟を目指す。

【方針】

人や社会を理解するためには、基礎的な知識の習得を重視する。また物事の知識だけでなく、歴史や背景、関係する人々の思いなども含めて、何を考え・行動するのかという講義を展開する。

【計画（方法）】

これまで発表された研究成果や実験結果を多く扱い、ボトルネックとなっている社会事象に対して積極的にアプローチをおこない、多様な見方・考え方ができるよう進める。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

公認心理師の職責、人間学概論、臨床心理学概論、心理学概論、
総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

心理学的支援法、社会・集団・家族心理学、神経・生理心理学、心理演習
総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

講義では、知識の伝達に加え、学習内容が臨床でどのように活用されるかに重点を置いた。特に、視聴覚教材や臨床での重要ポイントなど、教科書では得られない知見に時間を割いた。すべての講義でコメント欄を設け、学生の疑問や質問には必ず回答した。演習科目では、学生の発言やディスカッションを積極的に取り入れ、他者の意見に触れる機会と自身の考えを発信する機会を増やした。また、振り返りの時間を十分に確保し、自己理解の促進を図った。

○作成した教科書・教材

すべての講義で、講義内容に沿った資料を作成した。テキスト資料や講義スライドに加え、関連するニュースや身近な話題を取り上げ、写真や動画などの視聴覚教材を活用することで、理解を深めやすい構成とした。特に公認心理師カリキュラムの講義では、到達目標と国家試験の範囲を意識

し、講義ではその範囲を網羅しつつ、効果的な学習となるように意識した。

○自己評価

本年度の講義では、知識の伝達にとどまらず、臨床での実践的な活用を意識した指導を行った。視聴覚教材や具体的な事例を活用することで、学生の理解を深める工夫を施した。また、コメント欄を活用した質疑応答や、演習科目でのディスカッションを通じて、学生の主体的な学びを促した点は評価できる。一方で、より双方向性を高めるための工夫や、個々の理解度に応じた対応にはさらなる改善の余地がある。今後は学生のフィードバックを参考に、講義内容の充実を図りたい。

II 研究活動

○研究課題

メンタルヘルスの予防・回復に資する学術研究および開発

○目標・計画

【目標】

睡眠や生体リズムに関する研究テーマを通して、人々のメンタルヘルスの向上に貢献する。特に、先端技術や解析技術を用いて、これまで明らかにできなかった革新的な研究成果を目指す。

【計画】

メンタルヘルスや睡眠・生体リズムに関する複数の研究課題を同時に進行する。他施設の研究者との共同研究も多いため、研究計画、倫理審査、調査・実験、学会発表、論文執筆を遂行する。同時に、適宜競争的資金の申請をおこなう。

○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（学術論文）国内雑誌

- ・ 吉村道孝, 三島和夫. 行動嗜癖と睡眠障害. 医師会雑誌. 第 149 巻第 6 号; 1030, 2020.
- ・ 北沢桃子, 吉村道孝, 村田まゆ, 藤本友香, 一言英文, 三村将, 坪田一男, 岸本泰士郎. 日本の大学生を対象としたインターネット使用と精神症状との関連. 精神神経学雑誌. 121 巻 8 号; 593-601, 2019.
- ・ 西村英伍, 元村祐貴, 勝沼るり, 吉村道孝, 三島和夫, 尾方義人. 機械学習を用いた動画解析による生体情報の自動追跡技術: 瞼裂幅計測に用いた一例. 日本生理人類学会誌. 24(1):35-45, 2019

（学術論文）国際雑誌

- ・ Takako Nagata, Kiko Shiga, Takanori Fujita, Momoko Kitazawa, Michitaka Yoshimura. Changes in Subjective Sleep, Physical Condition, and Mental Health during the COVID-19 Pandemic: A Nationwide Survey in Japan. Journal of Psychological Research 5(3) 11-25 2023 July.
- ・ Shiga K, Izumi K, Minato K, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K, Momota Y, Mimura M, Kishimoto T. Association of Work Environment with Stress and Depression among Japanese Workers. WORK: A Journal of Prevention, Assessment & Rehabilitation. 2022;72(4):1321-1335.
- ・ Shiga K, Izumi K, Minato K, Sugio T, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K, Kurokawa S, Momota Y, Sado M, Maeno T, Takebayashi T, Mimura M, Kishimoto T. Subjective well-being and month-long LF/HF ratio among deskworkers. PLoS One. 2021 Sep 7;16(9):e0257062.
- ・ Shiga K, Izumi K, Minato K, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K, Momota Y, Mimura M, Kishimoto T. Association of Work Environment with Stress and Depression among Japanese Workers. WORK: A Journal of Prevention, Assessment & Rehabilitation. 2021

- [Makiuchi MR](#), Warnita T, Inoue N, Shinoda K, [Yoshimura M](#), Kitazawa M, Funaki K, Eguchi Y, Kishimoto T. Speech Paralinguistic Approach for Detecting Dementia Using Gated Convolutional Neural Network. IEICE Translations. 2021 Nov E104-D,11.
- [Yamamoto M](#), Takamiya A, Sawada K, [Yoshimura M](#), Kitazawa M, Liang KC, Fujita T, Mimura M, Kishimoto T. Using speech recognition technology to investigate the association between timing-related speech features and depression severity. PLoS One. 2020; 11,15(9):e0238726.
- [Kishimoto T](#), Takamiya A, Liang KC, Funaki K, Fujita T, Kitazawa M, [Yoshimura M](#), Tazawa Y, Horigome T, Eguchi Y, Kikuchi T, Tomita M, Bun S, Murakami J, Sumali B, Warnita T, Kishi A, Yotsui M, Toyoshiba H, Mitsukura Y, Shinoda K, Sakakibara Y, Mimura M; PROMPT collaborators. The project for objective measures using computational psychiatry technology (PROMPT): Rationale, design, and methodology. Contemp Clin Trials Commun. 2020;18,19,100649.
- [Sumali B](#), Mitsukura Y, Liang K.-C, [Yoshimura M](#), Kitazawa M, Takamiya A, Fujita T, Mimura M, Kishimoto T. Speech Quality Feature Analysis for Classification of Depression and Dementia Patients. Sensors 2020, 20, 3599.
- [Yoshimura M](#), Kitamura S, Eto N, Hida A, Katsunuma R, Ayabe N, Motomura Nishiwaki Y, Negishi K, Tsubota K, Mishima K. Relationship between Indoor Daytime Light Exposure and Circadian Phase Response under Laboratory Free-Living Conditions. Biological Rhythm Research. 2020.
- [Horigome T](#), Sumali B, Kitazawa M, [Yoshimura M](#), Liang KC, Tazawa Y, Fujita T, Mimura M, Kishimoto T. Evaluating the severity of depressive symptoms using upper body motion captured by RGB-depth sensors and machine learning in a clinical interview setting: A preliminary study. Compr Psychiatry. 2020; 98:152169.
- [Tazawa Y](#), Liang KC, [Yoshimura M](#), Kitazawa M, Kaise Y, Takamiya A, Kishi A, Horigome T, Mitsukura Y, Mimura M, Kishimoto T. Evaluating depression with multimodal wristband-type wearable device: screening and assessing patient severity utilizing machine-learning. Heliyon. 2020;4,6(2):e03274.
- [Kitazawa M](#), [Yoshimura M](#), Hitokoto H, Sato-Fujimoto Y, Murata M, Negishi K, Mimura M, Tsubota K, Kishimoto T. Survey of the Effects of Internet Usage on the Happiness of Japanese University Students. Health and Quality of Life Outcomes. 2019;17;151.
- [Tazawa Y](#), Wada M, Mitsukura Y, Takamiya A, Kitazawa M, [Yoshimura M](#), Mimura M, Kishimoto T. Actigraphy for Evaluation of Mood Disorders: A Systematic Review and Meta-analysis. Journal of Affective Disorders. 2019;15,253,257-269.

(学会発表) (国内)

- [吉村道孝](#), 北沢桃子, 志賀希子, 江藤太亮, 北村真吾. スマートフォンの使用を寝る前に制限すると、睡眠がよくなる!?. 第31回日本未病学会学術総会. 石川. 2024.11.2-3.
- [吉村道孝](#), 北沢桃子, 志賀希子, 江藤太亮, 北村真吾. 就寝前の発光型電子機器使用の制限は、休日の就床時刻を前進させる. 日本睡眠学会第48回定期学術集会. 神奈川. 2024.7.18-19.
- 志賀希子, [吉村道孝](#), 北沢桃子. 簡易睡眠脳波計を用いた客観的睡眠評価、および主観的な睡眠評価とウェルビーイングの関連. 日本睡眠学会第48回定期学術集会. 神奈川. 2024.7.18-19.
- 北沢桃子, [吉村道孝](#), 志賀希子, 江藤太亮, 北村真吾. 就寝前の発光型電子機器使用の制限が、気分や社会的ジェットラグに与える影響. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024.7.12-13.
- 志賀希子, [吉村道孝](#), 北沢桃子. 精神疾患の罹患歴がない健常者を対象とした睡眠状態誤認と、うつ症状・ストレス・不安症状の関連. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024.7.12-13.

- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 志賀希子, 江藤太亮, 北村真吾. 就寝前の電子機器使用制限の効果と個人特性の関連. 日本生理人類学会第 85 回大会. 東京, 2024.6.14-16.
- ・ 吉村道孝, 江口洋子, 北沢桃子, 志賀希子, 綾部直子. 光過敏性とソーシャルジェットラグの探索的調査. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会・第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会. 神奈川, 2023.9.15-17
- ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子. 簡易睡眠脳波計を用いた在宅での睡眠構造と well-being の関連. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会・第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会. 神奈川, 2023.9.15-17
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 志賀希子, 綾部直子, 江口洋子. 若年から高齢者までを対象とした主観的認知機能に関連する要因の検討. 第 20 回日本うつ学会総会. 宮城, 2023.7.21-22.
- ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子, 綾部直子, 江口洋子. 若年から高齢者までを対象とした死の不安・恐怖とうつ症状の関連の検討. 第 20 回日本うつ学会総会. 宮城, 2023.7.21-22
- ・ 吉村道孝, 江口洋子. 「若年から高齢者までを対象とした睡眠と関連する心理・社会的要因のウェブ調査」. 学術変革領域「生涯学」第 2 回領域会議, 京都, 2023.3.18.
- ・ 吉村道孝, 越川陽介, 江口洋子, 北沢桃子, 花城清香, 村田まゆ, 志賀希子, 藤田卓仙. 大学生に対する COVID-19 ワクチン接種に関するリスク・コミュニケーション実践がワクチン接種意思に与える影響. 第 29 回日本未病学会学術総会, 千葉, 2022.11.12-13.
- ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子, 永田貴子, 藤田卓仙. 新型コロナワクチンに対する理解度と主観的心身状態の関連. 第 19 回日本うつ学会総会. 大分 (ハイブリッド方式開催), 2022.7.14-15.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 志賀希子, 永田貴子, 藤田卓仙. COVID-19 流行下におけるワクチンに対する信頼度と睡眠の関連. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会. 京都 (ハイブリッド方式開催), 2022.6.30-7.1
- ・ 藤田卓仙, 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子. 新型コロナウイルス感染症に関連する携帯電話関連技術を用いた対策についての全国調査. 日本公衆衛生学会第 80 回大会. 東京, 2021.12.21.
- ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子, 藤田卓仙. 新型コロナワクチン接種意思に関連する要因の全国調査. 日本公衆衛生学会第 80 回大会. 東京, 2021.12.21.
- ・ 吉村道孝, 越川陽介, 江口洋子, 藤田卓仙, 花城清香, 北沢桃子, 村田まゆ, 志賀希子. 大学生に対する新型コロナワクチン接種に関するリスク・コミュニケーション教育の試み. 第 1 回日本公認心理師学会学術集会. 沖縄, 2021.12.12.
- ・ 吉村道孝, 藤田卓仙, 花城清香, 北沢桃子, 江口洋子, 越川陽介, 村田まゆ. 新型コロナワクチン接種の正しい理解のためのコミュニケーションハンドブック」日本語翻訳版の作成. 第 1 回日本公認心理師学会学術集会. 沖縄, 2021.12.12.
- ・ 吉村道孝. 志賀希子. 永田貴子. 北沢桃子. 藤田卓仙. コロナ禍における主観的健康観に関する全国調査. 第 28 回日本未病学会学術総会. 大阪, 2021.11.20.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 藤田卓仙. 新型コロナウイルス感染症がソーシャルメディア上の睡眠関連キーワードに与える影響. 日本睡眠学会第 46 回定期学術集会, 福岡, 2021.9.23-24.
- ・ 志賀希子, 北沢桃子, 藤田卓仙, 吉村道孝. コロナ禍における日本人の幸福感日本心理学会. 第 85 回日本心理学会, WEB, 2021.9.1-9.8.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子. 新型コロナウイルス感染症拡大前の 2019 年とコロナ禍の 2020 年のソーシャルメディア上の希死念慮に関する話題頻度について. 第 18 回日本うつ病学会, 神奈川, 2021.7.8-10.
- ・ 志賀希子, 泉啓介, 湊和修, 吉村道孝, 北沢桃子, 花城清香, 前野隆司, 佐渡充洋, 武林亨, 三村将, 岸本泰士郎. テレワーク実施頻度とストレス、well-being、抑うつ、パフォーマンスの関連. 第

94 回日本産業衛生学会, 長野, 2021.5.18-21.

- ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子, 泉啓介, 湊和修, 三村將, 岸本泰士郎. デスクワーク労働者における職場環境や生活習慣とうつ症状の関連. 第 17 回日本うつ病学会, 福岡, 2021.1.28-29.
- ・ 越川陽介, 吉村道孝, 江口洋子, 貝瀬有里子, 花城清香, 村田まゆ, 北沢桃子. メンタルヘルス部会における未病の定義と行動指針に関する一考察. 第 27 回日本未病学会学術総会, 東京, 2020.10.31-11.1.
- ・ 村田まゆ, 吉村道孝, 北沢桃子, 貝瀬有里子, 花城清香, 市丸佳世, 江口洋子, 越川陽介. 我が国における高齢者の神経心理アセスメントツールの使用頻度と教育課程の調査. 第 27 回日本未病学会学術総会, 東京, 2020.10.31-11.1.
- ・ 志賀希子, 泉啓介, 湊和修, 吉村道孝, 北沢桃子, 三村將, 岸本泰士郎. テレワークの実施の有無とストレス、well-being、抑うつ、パフォーマンスの関連. 第 36 回日本ストレス学会. 2020.10.24-25.
- ・ 志賀希子, 泉啓介, 湊和修, 吉村道孝, 北沢桃子, 三村將, 岸本泰士郎. デスクワーク労働者のパフォーマンスに関連する要因の検討. 日本心理学会第 84 回大会, 東京 (web 開催), 2020.9.8-11.2.
- ・ 杉尾樹, 泉啓介, 湊和修, 志賀希子, 花城清香, Kelley Cortright, 宇佐美陽子, 北沢桃子, 吉村道孝, 藤田卓仙, 前野隆司, 佐渡充洋, 武林亨, 三村將, 岸本泰士郎. 生体信号データによるストレス・well-being の機械学習予測モデルの構築の検討. 第 93 回日本産業衛生学会, 北海道 (web 開催), 2020.6.12-28.
- ・ 泉啓介, 志賀希子, 湊和修, 花城清香, Kelley Cortright, 宇佐美陽子, 北沢桃子, 吉村道孝, 杉尾樹, 藤田卓仙, 前野隆司, 佐渡充洋, 武林亨, 三村將, 岸本泰士郎. デスクワークに従事している労働者のストレス・well-being と生体 sensing data との関連. 第 93 回日本産業衛生学会, 北海道 (web 開催), 2020.6.12-28.
- ・ 志賀希子, 泉啓介, 湊和修, 花城清香, Kelley Cortright, 宇佐美陽子, 北沢桃子, 吉村道孝, 杉尾樹, 藤田卓仙, 前野隆司, 佐渡充洋, 武林亨, 三村將, 岸本泰士郎. デスクワークに従事している労働者のストレス・well-being と職場環境の関連. 第 93 回日本産業衛生学会, 北海道 (web 開催), 2020.6.12-28.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, Brian Sumali, Kuo-Ching Liang, 岸本泰士郎. スマートフォンを用いた睡眠計測の妥当性評価. 第 26 回日本未病システム学会学術総会, 名古屋, 2019.11.16-17.
- ・ 志賀希子, 泉啓介, 湊和修, 花城清香, Kelley Cortright, 北沢桃子, 藤田卓仙, 吉村道孝, 杉尾樹, 三村將, 岸本泰士郎. デスクワークが多い業務に従事している労働者のストレス・well-being と心理社会的な職場環境に関する考察. 第 35 回日本ストレス学会学術総会, 福岡, 2019.10.26-27.
- ・ 鶴嶋史哉, 菊地俊暁, 吉村道孝, Liang Kuo-Ching, 北沢桃子, 三村將, 岸本泰士郎. 深層学習を用いた表情データによるうつ症状の重症度判定の試み. 第 16 回日本うつ病学会総会, 徳島, 2019.7.5-6.
- ・ 北沢桃子, 山田千晶, 吉村道孝, 川島素子, 井上佐智子, 三村將, 坪田一男, 根岸一乃. 岸本泰士郎. ドライアイ患者におけるうつ症状および不安症状に関する観察研究. 第 16 回日本うつ病学会総会, 徳島, 2019.7.5-6.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, Brian Sumali, 田澤雄基, 貝瀬有里子, 三村將, 岸本泰士郎. ウエアラブル活動量計を用いた睡眠リズムとうつ症状との関連. 第 16 回日本うつ病学会総会, 徳島, 2019.7.5-6.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 江口洋子, 三村將, 岸本泰士郎. 高齢者における睡眠一覚醒リズム(The Sleep Regularity Index : SRI)と睡眠、精神症状及び認知機能との関係. 日本睡眠学会第 44 回定期学術集会, 名古屋, 2019.6.27-28.

- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 岸本泰士郎. ウェアラブル活動量計を用いた睡眠リズムと認知症との関連. 日本生理人類学会第 79 回大会, 東京, 2019.6.1-2.

(学会発表) シンポジウム (国内招待発表)

- ・ 吉村道孝, 働く人の睡眠衛生と多職種連携に向けた公認心理師の可能性, 産業メンタルヘルスと未病の多職種連携, 石川, 2024 年 11 月 2 日.
- ・ 吉村道孝. ロボットは人を癒せるのか? ヒトとロボットのメンタルヘルスの効果を探る. 第 29 回日本未病学会学術総会, 千葉, 2022 年 11 月 12 日-13 日.
- ・ 吉村道孝. 大学教育改革フォーラム in 東海 2022 学生支援分科会「発達障害傾向のある学生への睡眠・覚醒リズム支援」2022 年 3 月 5 日.

(学会発表) (国際学会)

- ・ Shiga K, Izumi K, Minato K, Sugio T, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K, Kurokawa S, Momota Y, Sado M, Maeno T, Takebayashi T, Mimura M, Kishimoto T. Subjective Well-being and the LF/HF ratio among deskworkers. The 60th Annual Convention of the Taiwan Psychological Association, Taiwan, October 16-17, 2021.
- ・ Kitazawa M, Yoshimura M, Shiga K, Nagata T, Hanashiro S, Fujita T. Japanese National Survey on Subjective Health during COVID-19. The 60th Annual Convention of the Taiwan Psychological Association, Taiwan, October 16-17, 2021.
- ・ Yoshimura M, Shiga K, Kitazawa M, Hanashiro S, Nagata T, Fujita T. Nationwide survey of COVID-19 vaccination factors in Japan. The 60th Annual Convention of the Taiwan Psychological Association, Taiwan, October 16-17, 2021.
- ・ Katsunuma R, Motomura Y, Yoshimura M, Moriguchi Y, Mishima K. Neural Associations of Moral Judgments Affected by Sleep Deprivation. Neuroscience and Society 2019, Melbourne, December 3-4, 2019.

(特許)

- ・ 発明等の名称: 疾患予測装置、予測モデル生成装置および疾患予測用プログラム 出願人: 東京都港区 (899000079) 学校法人慶應義塾 発明者: 岸本泰士郎、梁國經、吉村道孝、北沢桃子、藤田卓仙、三村將 出願記事: 特願 2019-212031 (2019/11/25)
- ・ うつ状態を推定する装置、方法及びそのためのプログラム 出願人: 東京都港区 (899000079) 学校法人慶應義塾 発明者: 岸本泰士郎, 田澤雄基, 梁國經, 藤田卓仙, 吉村道孝, 北沢桃子, 三村將 出願番号: 特願 2018-234966(2018/12/14) 国際出願番号: PCT/JP2019/48904(2019/12/13)

(その他)

- ・ 吉村道孝, 花城清香, 北沢桃子, 越川陽介, 藤田卓仙. 新型コロナワクチンコミュニケーションハンドブック日本語翻訳版の作成 (ブリストル大学と共同) . 2021

(メディア)

- ・ 吉村道孝. テレビ番組監修. 日本人の 3 割しか知らないこと くりいむしちゅーのハナタカ!優越館. 2020.08.13

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

- 令和 2 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) . 若手研究. 「VR を使ったフラッシュ光照射による睡眠—覚醒リズムの改善効果」. 令和 2 年度~令和 5 年度. 研究代表者 吉村道孝.
- 令和 5 年度第 12 回人文・社会科学系学術研究助成 (公益財団法人大幸財団). 「ヘッドセット

を用いた光照射による概日リズムの位相前進効果に関するランダム化比較試験」. 令和5年11月1日～令和7年3月31日. 研究代表者 吉村道孝.

○所属学会

日本睡眠学会／日本うつ病学会／日本未病学会／日本生理人類学会／日本公衆衛生学会
日本公認心理師協会／

○自己評価

複数の競争的資金を獲得でき、中核となる研究を促進することができている。また研究成果を広く社会に公開し、還元できている。研究論文の査読や学会活動も積極的に受任し、学術の発展に貢献できている。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

大学行事、人間健康学部や研究活動委員会へ貢献できるように責務を果たす。

【計画】

大学行事、人間健康学部や研究活動委員会の行動指針、活動内容を把握し、積極的に参加する。特に公認心理師カリキュラムの適正化や学生へのメンタルヘルスについて専門性を生かして貢献する。

○学内委員等

人間健康学部執行部、研究活動委員会、研究倫理委員会

○自己評価

それぞれの委員会において、委員として貢献することができた。また複数回のオープンキャンパスの模擬授業や、教育懇談会での講演、高大連携授業などにおいて貢献ができた。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

睡眠医療・心理学実践を社会に還元する。

【計画】

睡眠衛生・精神疾患の支援に対する普及活動を積極的におこなう。学外機関等からの講演要請に応える。学会活動の一環として専門家向け、一般向けの研修会に積極的にコミットする。

○学会活動等

日本未病学会 評議員、日本未病学会メンタルヘルス部会 副代表

○地域連携・社会貢献等

(講演)

- ・ 星城高校 2024年6月7日
- ・ 小牧市北里市民センター 2024年6月14日
- ・ 啓明学館高校 2024年8月19日
- ・ 中川区生涯学習センター 2024年9月19日
- ・ 岡崎城西高校 2024年10月3日

- ・ 尾張旭市思春期子育て講座 2024年11月12日

- ・ 岩倉市立岩倉北小学校 2024年11月29日

(主催研修会)

- ・ メンタルヘルス領域のための多職種連携はじめての一步 Part II, 日本未病学会メンタルヘルス部会, オンライン, 2024年12月15日.

○自己評価

今年度も複数の講演依頼等をいただき、睡眠衛生やメンタルヘルスに関して地域の小学生から高齢者までの公衆衛生の発展に寄与できた。研修会では、毎年実施しており公認心理師や臨床心理士を中心にメンタルヘルスに関する研修会を実施できた。また専門領域に関して個人から団体まで、広く問い合わせや会議の依頼があり社会貢献がおこなえた。

V その他の特記事項 (学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等)

演習学生が卒業研究として、研究手法、研究機材、データ解析について研究成果を使用できおり、研究業績は教育にも十分に応用できている。

VI 総括

今年度は、公認心理師カリキュラムを含む講義を担当し、視聴覚教材や演習を通じて知識と実践を結び付ける指導に取り組んだ。研究面では、競争的資金の獲得や多数の研究発表を行い、睡眠・生体リズムとメンタルヘルスに関する学術的知見の拡充に貢献した。さらに学部執行部や研究倫理委員会での活動、地域や学会向けの講演・研修会を通じて、社会への還元にも尽力した。

今後は学生の理解度向上や双方向的な講義運営の充実、研究成果のさらなる発展を目指して取り組みたい。

以 上